

研究プロジェクト「ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築」  
Research Project: Toward A Care-Based Reconstruction of Social Security System

実施期間： 2011～2013年度（第1年次）

Term of the Project: 2011-2013 fiscal years (1<sup>st</sup> year)

研究代表者： 西村 健一郎 同志社大学大学院司法研究科教授

Project Leader: Dr. Kenichiro NISHIMURA, Professor, Doshisha Law School

研究目的要旨：

ケアの概念を、介護・看護などの狭い意味に限定せず、配慮・世話・注意などの広い意味で理解し、このような相互作用の関係概念が問題化している社会的・倫理的等の背景をふまえ、ケア概念を基軸にすえた社会保障システムの現代的な在り方を学際的に検討する。主な検討対象を家族構造、医療介護空間、雇用労働環境の3領域に絞り、それぞれの領域の最近の構造変容に伴って具体的にどのようなケア問題についてどのような社会保障的対応が要請されているかを整理した上で、それぞれの分野及びそれらの相互関係において公私のケア・ネットワークをどのように再編成し、そのようなケア・ネットワークの整備を公的に支援する社会保障システムをどのように再構築すべきかについて、政策論的・制度論的観点から総合的に解明する。

研究目的：

①背景：

ケアの問題は、従来、基本的には親密圏の問題として家族や共同体内部で対応されてきたが、少子高齢化、家族構成の変化、女性の社会進出、医療介護空間の変貌、雇用の流動化などの社会構造の変容に伴って、次第に社会化し、公共的な政策課題としての対応の必要性和重要性が急速に高まっている。医療看護学、介護学、社会福祉学等の分野だけでなく、倫理学・社会学・心理学等の分野でもケアの概念が注目され、ケアの理論と実践に関して多彩な研究が展開されているが、それらの研究成果は、ケア問題への対応において重要な位置を占めている社会保障システムの在り方をめぐる政策論的・制度論的考察にはまだほとんど活かされていない。他方、社会保障システムの在り方をめぐる政策論的・制度論的議論では、所得の再分配による個人の福利の増進機能に焦点を合わせ、その規模や財源などに関する公私の役割分担や世代間の負担の公平の確保などの問題に関心が集中し、ケア・ネットワークの再編やそれに対する社会保障的支援が社会的連帯や個人の生き方に対してもつ社会的・倫理的意義に対する考察は背後に追いやられてしまっている観がある。このような従来のケア論の限界及び社会保障政策・制度論議の偏りを学際的共同研究によって是正することが、次世代にも承継可能な公私ケア・ネットワークの再編成と社会保障システムの再構築にとって焦眉の課題となっている。

②必要性：

①で述べたように、ケア論の多彩な展開にもかかわらず、ケアの概念のあいまいさや各論者の問題関心のバラツキなどのために、ケアという相互作用の関係概念が社会保障の在り方の政策論的・制度論的考察に対してもつインプリケーションが必ずしも明確でない。このような状況を、具体的な政策・制度に則して、関連分野の研究者の学際的共同研究によって打開する必要がある。また、社会保障システムの在り方をめぐる政策論的・制度論的議論が、所得の再分配という経済的・財政的側面に焦点をあわせている結果として、公私のケア・ネットワークの再編成のもつ政治社会的・倫理的意義にまで遡った議論

が背後に退き、そのため、公私の役割分担や世代間の負担の問題をめぐる議論を膠着状態に陥らせている観がある。本プロジェクトのような観点からの学際的研究によって、個人の福利ではなく、相互関係的なケアをキーコンセプトとする社会保障システムを構想し、次世代にも承継可能な社会保障の在り方を提示することは、論議の展開に新たな方向を示す意義がある。

### ③ 方針：

- (1) 以上で述べたようなケア論の議論状況に鑑み、ケア論自体については、適宜各分野の代表的な研究者をゲスト・スピーカーとして招いて意見交換をするが、主としてコア・メンバーが分担して研究動向を調査する方式をとることにして、研究会メンバーは政策論・制度論を専門とする法学者・社会学者を中心に編成する。
- (2) 考察対象を拡散させないために、家族関係、医療介護空間、雇用労働環境におけるケア問題をめぐる理論と実践の動向とその問題状況に絞り、それぞれの分野の政策論的・制度論的論議に造詣の深い研究者をコア・メンバーに加える。
- (3) 2013年度にこのプロジェクトを主体に開催を予定している高等研カンファレンスの具体的なテーマと内外の招聘者についても意見交換し、2011年度中に原案を確定する。

### Objectives:

It is notable that interest in interactional and relational concept of “care” is rapidly increasing in such fields as family relationship, medical and nursing practice, and employment in subsequent to their structural transfiguration. In view of essential position of care problem in social security system, it is urgent to consider synthetically possibility of a care-based reconstruction of social security system. Though various discussions about theory and practice of care problems have developed, the study of implications of these discussions for policy-making and institutional design of social security system seems to be not sufficient. The aim of this interdisciplinary research project is to explore into implications of care problems for policy-making and institutional design of social security system, and to propose a basic framework and directions of reorganizing private and public care network and public social security system appropriate for supporting such network.

キーワード: ケア、社会保障、家族、介護、雇用

Key Word: Care, Social Security, Family, Nursing Care, Employment

参加研究者リスト: 17名 (◎研究代表者)

氏名	職名等
◎西村健一郎	同志社大学大学院司法研究科教授
安里 和晃	京都大学大学院文学研究科特任准教授
荒山 裕行	名古屋大学大学院経済学研究科教授
池田 恵利子	社団法人あい権利擁護支援ネット代表理事・社会福祉士
埋橋 孝文	同志社大学社会学部教授
大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
尾形 健	同志社大学法学部教授
落合 恵美子	京都大学大学院文学研究科教授
河 幹夫	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授
齋藤 有紀子	北里大学医学部医学原論研究部門准教授
笹田 昌孝	滋賀県立成人病センター総長
佐藤 恵子	京都大学大学院医学研究科特定准教授

相馬 直子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究所准教授
武川 正吾	東京大学大学院人文社会系研究科教授
服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
水島 郁子	大阪大学大学院法学研究科准教授
村中 孝史	京都大学大学院法学研究科教授

2011年度研究活動予定：

①研究会開催予定：

- 第1回：2011年6月ないし7月 1泊2日（於 高等研）
- 第2回：2011年9月 1日（Mazal教授が他会議に来日される日程に合わせて開催）（場所未定）
- 第3回：2012年2月 1泊2日（於 高等研）

②話題提供予定者： 5名

川本隆史（東京大学大学院教育研究科教授、倫理学）・・・ケアの社会倫理学の先駆的提唱者  
菊池馨実（早稲田大学法学学術院教授、社会保障法）・・・社会保障法の理念の代表的研究者  
Wolfgang Mazal（ウイーン大学法学部教授、社会保障法）・・・オーストリアの社会保障法学者  
（Mazal教授は、別の国際会議のために来京される予定であり、招聘旅費は不要）

\*他に、医療介護と社会福祉の分野におけるケア問題に詳しい専門家を各1名招聘予定。

報告書の出版：

2014年 3月出版予定

\*このプロジェクトを基礎に企画・開催する予定の高等研カンファレンスの報告書と一体的に編集して刊行する予定。

担当：田中副所長

国際高等研究所 研究プロジェクト  
「ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築」  
2011年度第1回研究会 プログラム

開催日時：2011年 7月15日（金） 14：00～17：30  
7月16日（土） 9：30～12：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：西村 健一郎 同志社大学大学院司法研究科教授  
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（14人）

研究代表者 **	西村 健一郎	同志社大学大学院司法研究科教授
参加研究者	荒山 裕行	名古屋大学大学院経済学研究科教授
（11人）	池田 恵利子	一般社団法人あい権利擁護支援ネット代表理事／社会福祉士
**	埋橋 孝文	同志社大学社会学部教授
	尾形 健	同志社大学法学部教授
**	河 幹夫	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授
	笹田 昌孝	滋賀県立成人病センター総長
	佐藤 恵子	京都大学大学院医学研究科特定准教授
**	武川 正吾	東京大学大学院人文社会系研究科教授
**	服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
	水島 郁子	大阪大学大学院法学研究科准教授
	村中 孝史	京都大学大学院法学研究科教授

\*\*：スピーカー

その他参加者 佐藤 彰一 法政大学法科大学院教授  
（2人） 田中 成明 国際高等研究所副所長

プログラム

7月15日（金）

14：00～17：30 [セミナー1]

14：00 プロジェクトの企画趣旨説明  
西村 健一郎 教授（研究代表者）  
田中 成明 教授（担当副所長）

14：20 ケア論の動向から見た社会保障問題  
話題提供者 服部 高宏 教授（参加研究者）

出席者から、自己紹介を兼ねてそれぞれコメントいただいた後、意見交換

15 : 10 <休憩 10 分>

15 : 20 社会保障の動向とケア問題（1）（各 20～30 分）

話題提供者 西村 健一郎 教授（研究代表者）

話題提供者 埋橋 孝文 教授（参加研究者）

題目「日本のセーフティネットのかたち」

（討 論）

17 : 30 終了

19 : 00～21 : 00 意見交換を兼ねた懇談会

7月16日（土）

9 : 30～12 : 00 研究会〔セミナー1〕

9 : 30 社会保障の動向とケア問題（2）（各 20～30 分）

話題提供者 武川 正吾 教授（参加研究者）

話題提供者 河 幹夫 教授（参加研究者）

（討 論）

11 : 40 今後の研究の進め方について

12 : 00～13 : 00 昼食 兼 意見交換会

配布資料（公開不可）

- 社会保障からみた「ケア」 西村 健一郎
- 2011 年度研究計画書「ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築」
- IIAS NEWS letter vol.77
- ケア論の動向からみた社会保障問題 服部 高宏
- 社会保障の動向とケアの問題 河 幹夫
- 新老年学 武川 正吾
- 高齢者ケア政策の変遷 武川 正吾
- 岐路に立つ日本の介護システム 武川 正吾

国際高等研究所 研究プロジェクト  
「ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築」  
2011年度第2回研究会 プログラム

開催日時：2011年 10月1日（土） 13：30～17：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：西村 健一郎 同志社大学大学院司法研究科教授  
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（11人）

研究代表者	西村 健一郎	同志社大学大学院司法研究科教授
参加研究者 （メンバー） （9人）	安里 和晃 池田 恵利子 埋橋 孝文	京都大学大学院文学研究科特任准教授 あい権利擁護支援ネット代表理事／社会福祉士 同志社大学社会学部教授
**	落合 恵美子 河 幹夫 笹田 昌孝 佐藤 恵子 服部 高宏	京都大学大学院文学研究科教授 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授 滋賀県立成人病センター総長 京都大学大学院医学研究科特定准教授 京都大学大学院法学研究科教授
**	水島 郁子	大阪大学大学院法学研究科准教授

\*\*：スピーカー

その他参加者 田中 成明 国際高等研究所副所長  
（1人）

プログラム

10月1日(土)

13:30~17:30 研究会〔セミナー1〕

13:30 話題提供(1)

落合 恵美子 教授(京都大学大学院文学研究科)

「家族主義の多様性：アジアのケアレジームの国際比較」

意見交換

15:25 <休憩>(10分)

15:35 話題提供(2)

水島 郁子 准教授(大阪大学大学院法学研究科)

「労働関係にみるケアと社会保障」

17:30 終了

配布資料(公開不可)

- 「Varieties of Familialism : A Comparison of Asian Care Regimes」落合 恵美子
- 「労働関係にみるケアと社会保障」水島 郁子

国際高等研究所 研究プロジェクト  
「ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築」  
2011年度第3回研究会 プログラム

開催日時：2012年 2月24日（金） 14：00～17：30  
2月25日（土） 9：30～12：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：西村 健一郎 同志社大学大学院司法研究科教授  
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（15人）

研究代表者	西村 健一郎	同志社大学大学院司法研究科教授
参加研究者 （9人）	安里 和晃	京都大学大学院文学研究科特任准教授
	荒山 裕行	名古屋大学大学院経済学研究科教授
	池田 恵利子	社団法人あい権利擁護支援ネット代表理事・社会福祉士
**	齋藤 有紀子	北里大学医学部医学原論研究部門准教授
**	笹田 昌孝	滋賀県立成人病センター総長
**	佐藤 恵子	京都大学大学院医学研究科特定准教授
	武川 正吾	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
	水島 郁子	大阪大学大学院法学研究科准教授

\*\*：スピーカー

その他参加者 （5人）	上山 泰	筑波大学法科大学院教授
	佐藤 彰一	法政大学法科大学院教授
	竹中 勲	同志社大学大学院司法研究科教授
	田中 成明	国際高等研究所副所長
	名川 勝	筑波大学人間総合科学研究科講師

## プログラム

2月24日（金）

14：00 話題提供（1）

笹田 昌孝 氏（滋賀県立成人病センター総長）

「変遷する医療とケアの将来」

意見交換

<休憩>（10分）

16：10 話題提供（2）

佐藤 恵子 氏（京都大学大学院医学研究科特定准教授）

「がん進行期の患者のケアに必要なこと」

意見交換

17：30 終了

18：30～20：30 懇談会（打合せ・意見交換を兼ねて）

2月25日（土）

9：30 前日の意見交換の続き

10：00 話題提供（3）

齋藤 有紀子 氏（北里大学医学部医学原論研究部門准教授）

「療養生活と倫理・人権：身体拘束・胃ろうをめぐる問題」

意見交換

12：00～ 昼食（打合せ・意見交換を兼ねて）